

# 日本一の都市山六甲山の物語

瀬川 滋

## ● 六甲山は日本一の都市山

- ・ 六甲山（広義）：六甲山地、塩屋～武庫川約30kmの神戸背山の山塊  
（狭義）：六甲山単体、標高931m、六甲山地の主峰
- ・ 「都市山」の定義100万人クラスの人口の都市の背後にある標高1000m級の山  
イメージ：大都市の背後に屏風のように聳える山

## ● 六甲山地の成り立ち

- ・ 断層運動で現在の大阪湾一帯は沈んで大きな「大阪湖」が出来、その後も東西方向の強い力による断層運動は続き、平坦なこの地域は盛り上がり始める（六甲変動）
- ・ 更に大陸や海底のプレートの動きで、東西からの強い力で押され、断層運動が続き、深く沈んだ「大阪湖」は海と繋がり大阪湾となり、東北から南西に向かって高く盛り上がった場所が六甲山地となった

## ● 六甲山地周辺は活断層の巣

## ● 六甲山にロックガーデンがあるのは

- ・ 六甲山地の大部分は花崗岩で出来ている（六甲花崗岩）
- ・ 元々花崗岩は硬い岩だが、地表で雨風に晒されると風化で崩れ易い
- ・ 現在の六甲山地はかなり風化が進んでおり、ロックガーデンや蓬莱峡、白水峡、須磨アルプスの奇景は隆起した花崗岩が長期の間に雨風で弱い部分が崩れ、硬い部分が残って造り出されたものである
- ・ 武庫・菟原・有馬三郡の境界にある三国岩や烏帽子岩、雲が岩、天狗岩、六甲比命神社の磐座、越木岩神社の甕岩等々六甲山系には巨岩が多く、古代巨石信仰を生んでいる
- ・ 白鶴美術館から六甲山ガーデンテラスに向かう登山道に石切道があるが、この道は頂上付近で切り出した花崗岩を石材として御影石として牛車等で運び出した道で、名残として切り出された石が山積みされた所が残っている

## ● 豊富な植生を持つ六甲山

- ・ 山陽系、中国山地系、北方系、紀伊山地系、南紀系、海浜系

## ● 麓の山に弥生人のお宝が

- ・ 桜ヶ丘銅鐸：14本の銅鐸と7本の銅戈か、14個も出土するのは稀有

## ● 昔は六甲山という名では無かった

- ・ 六甲山のある地帯は古くから畿内から見て「むこう」にあることから「むこ」の名称
- ・ 秀吉の徳政令には「武庫山一名六甲山」の記述
- ・ 「武庫」に加えて「六甲」の字が当てられ、「むこ」を「ろっこう」と呼ぶようになった

## ● 修験者が闊歩していた

- ・ 役の小角が日本行者の七修行場の一つとして六甲修験道を開発
- ・ 近世、岩上の修行僧を見て天狗と考えた里人が、山内各地に天狗岩・天狗道・天狗塚等の天狗の名が付いた地が多い

## ● 清盛の愛した天王温泉、秀吉の愛した有馬温泉

- ・ そしてもう1つ明治時代に繁昌した温泉が諏訪山温泉

## ● 六甲山の岩が大阪城の石垣に

- ・ 石垣に利用された石の石切場跡が多く残っている、そこで直方形の割石が造られ、山から海岸迄降ろされ、船で大坂城迄運ばれた

## ● 六甲越の古道

- ・ 烏原越、鶴越、有馬街道(天王谷越)、大師道、白川道、
- ・ 多井畑道、魚屋道(有馬道)、唐櫃道

## ● つわもの共が夢の跡の摩耶山城

## ● 六甲の入会権争議

- ・ 芦屋背山、中一里山、多井畑入会山・唐櫃六甲山等々

## ● 開港時の六甲山は木が無い裸山

- ・ 1902 (明治35)年頃から緑をとりもどすための工事が始まる
- ・ 崩壊した斜面の復旧は、階段状に切り、芝を張り付けて苗木を植栽する「積苗工」という六甲治山独特の方法

## ● 大雨に弱い六甲の川

- ・ 普段はおとなしい川だが大雨時は暴れ川になり流域を変えた
- ・ 玉石地帯がその跡
- ・ 洪水の玉石の下から姿を現した古墳群(住吉宮町遺跡)
- ・ しかし江戸以前に湊川は古湊川から旧湊川に、明治になって居留地を守るために生田川は旧生田川から新生田川に付替
- ・ 更に湊川は兵庫の町と神戸の町の物流促進のため新湊川へ再付替されたこの時に掘った湊川隧道は日本初の河川トンネル

## ● 川の下を鉄道が走る天井川

- ・ 流域固定化のために堤防構築→豪雨になると川底に土砂が埋まる→溢れては困るので堤防を嵩上げする→この繰り返しで川は天井川化
- ・ 石屋川や住吉川、天井川、芦屋川等には川の下に鉄道トンネル(一部現在も)

## ● 嘗ての神戸の特産物「そうめん」

- ・ 都賀川・住吉川・生田川・湊川等々の上流に急流を利用した水車小屋が沢山あった

- ・米の精米、菜種を絞って菜種油の製造、小麦粉の製造を行っていた
- ・灘酒の大量生産に貢献、灘目素麺という素麺も沢山製造

### ● 宮水の秘密

- ・宮水は六甲に降った雨が伏流して花崗岩の地層を通ることで酵母の栄養になるリンやカリウムを豊富に取込むだけでなく、湧出地点に多くの酸素が含まれていて、その酸素の働きで酒の風味を損なう鉄分だけが消えるという奇跡の現象
- ・それと近くの水車による大量精米が大量生産を可能

### ● 赤道を越えても腐らない「コウベウォーター」

- ・神戸の水はリンやカリウムを豊富に含んで美味しい
- ・明治33年に布引貯水池の完成で、水道が開設(現在は3/4が淀川の水)
- ・赤道を越えても腐らないと、今でも船舶用は「コウベウォーター」が供給

### ● 山麓を相場情報が走った旗振通信

- ・江戸中期、経済の根幹たる大坂の米相場情報を逸早く伝達のために考案
- ・大阪から神戸迄3分～5分、岡山迄15分、広島迄27分で通信出来た

### ● 昔の六甲登山道

- ・石切道、魚屋道、住吉道(有馬道)、アイスロード、
- ・シュラインロード(唐櫃道)、カスケードバレー(杣谷道)

### ● 有馬温泉への六甲越

- ・住吉駅:住吉道→魚屋道(12km・駕籠)、神戸駅:有馬街道(天王谷越)(24km・人力車)

### ● 外国人が開発・活用した六甲山

- ・六甲山の娯楽の場としての開発は、居留地で貿易商の英人A.H.グループ明治43年には外国人山荘44戸、日本人山荘は12戸と外国人が圧倒的
- ・六甲の砂防・緑化は蘭人デ・レーケ、布引貯水池開発は英人H.S.パーマー他1人

### ● カタカナの六甲の地名・道名

### ● 日本の近代登山発祥の地

- ・六甲山はピッケル、ザイル等を使う日本の近代登山発祥の地(1874年)
- ・アーネスト・サトウ(「日本アルプス」命名者)達3人の外国人パーティが最初

### ● 日本最古のゴルフ場

- ・1903年グループにより六甲山上に神戸ゴルフ倶楽部(日本最古)が造られる
- ・当時山上への交通手段としては特製の駕籠や馬が利用されていた

### ● その他の山のスポーツ

- ・スケート、スキー、全山縦走(塩屋・宝塚56km) ・毎日登山

## ● 山麓の楽天地・二楽荘

- ・西本願寺22世・大谷光瑞が六甲山麓の打越(岡本)山に建設した別邸
- ・本館1階に英国室、支那室、アラビア室等、2階にインド室、エジプト室等

## ● 山中に眠る弾丸列車構想

- ・東京・下関を9時間で結ぶ(大東亜縦貫鉄道の一環)-1939(昭和14)年策定
- ・神戸は六甲山を潜る日本一の大トンネルで通過

## ● 今は昔の阪神と阪急の開発競争

- ・阪神が1927年に六甲山上を旧唐櫃村から買収、1932年に六甲ケーブルを開通
- ・阪急が1931~1944年にロープウェイと六甲山ホテルで殴り込みをかけ競い合う

## ● 頂上は2か所ある

- ・最高峰周辺は陸軍の高射砲陣地(戦時中)、米軍通信基地(戦後)で一般人立入禁止
- ・このため実際の最高峰の南の小高い丘を六甲山最高峰としていた
- ・1992年に返還されてからは標高931m、一等三角点のある本当の最高峰に立入可

## ● 近代化産業遺産建物

- ・六甲ケーブル山上駅、神戸ゴルフ倶楽部クラブハウス、六甲山ホテル旧館、
- ・ヴォーリズ六甲山荘

## ● 六甲山地の日本初づくし

- ・高山植物園、人工スキー場、天然アイススケート場、重力式コンクリートダム
- ・スリット型砂防堰堤、簡易天幕生活キャンプ、触れるミュージアム

## ● 六甲山グリーンベルト構想

- ・目的：六甲山系を一連の樹林帯として守り育て、土砂災害防止、緑豊かかな都市環境・景観創出、都市の山裾拡散防止、健全なレクリエーションの場の提供

2019.6.25